

第4回食育推進全国大会に出展

本会は6月13～14日の2日間、島根県松江市のくにびきメッセ(県立産業交流会館)で開催された第4回食育推進全国大会に、「酪農家と学ぶ牧場の『食』と『いのち』」をテーマにしたブースを出展した。来場者はバターやチーズ作り体験、酪農に関するクイズラリーなどに参加、楽しく学びながら酪農と牛乳乳製品に対する理解を深めた。

● 今回の出展テーマは 酪農家と学ぶ牧場の「食」と「いのち」

内閣府が平成18年3月に決定した食育推進基本計画では、毎年6月を「食育月間」と定め、食育を国民運動として推進することになった。これを受けて、平成18年6月には大阪府で第1回食育推進全国大会が開催されて以降、「食育月間」の中核的なイベントとして全国各地で毎年開催されている。

本会は第1回の大坂大会からブースを出展しているが、今回の島根大会では「酪農家と学ぶ牧場の『食』と『いのち』」をテーマに、近畿、中国、四国地区の酪農家4人を始めとした酪農、教育関係者の協力で、様々なイベントを実施した。

会場内のブースは牧場をイメージさせる作りに仕上げ、牛の大きさを体感できる牛舎バナーを設置。また、ブース内に備え付けたスピーカーからは牛の心音を再生し、酪農教育ファームが疑似体験できる牧場風景を演出した。

さらに、全国の酪農教育ファーム認証牧場の地図を掲示し、島根県のある中国地区をはじめ、近隣の四国、近畿地区の牧場を紹介したほか、牛の体の仕組みを知ってもらうパネルの展示や、大型ディスプレイで牧場での出産映像を再生し、牛と酪農についての理解を深めた。



● クイズラリーで酪農家がアドバイス 参加型イベントでブースに賑わい

一方、来場者が参加するイベントとしては、ワークショップなどを使ったワークショップを始め、バター作り体験(13日に計3回)、カッテージチーズ作り教室(14日に計3回)をそれぞれ開催し、200人以上が参加した。

さらに、ブース内の各コーナーから5つの答えを探し出すクイズラリーには540人が参加し、クイズの全問正解者には「牛乳に相談だ。」グッズをプレゼントしたほか、参加賞としてその場で作って遊べる酪農教育ファームキット「モーモーでトントン相撲」(牛の紙相撲キット)を配布した。クイズの答えが分からない参加者は、近くの酪農家から直接アドバイスを受けるなど酪農家を身近に感じるイベントとなった。

今大会2日間の来場者数は1万3000人に上り、「酪農家と学ぶ『食』と『いのち』」をテーマにした本会のブースにも多くの人を訪れ、酪農家と来場者が牛や酪農、牛乳乳製品について楽しみながら学ぶことができるイベントとなった。

